

平成19年度 魅力ある活動支援事業 実施報告書

学校番号	67	学校名	下伊那農業	高等学校
------	----	-----	-------	------

事業目標テーマ

農業や関連産業の振興はもとより、地域社会・文化の担い手として貢献できる学校作り

節別執行額

8 報償費	117,800 円	12 役員費	円
9 旅費(旅費システム)	20,000 円	14 使用料・貸借料	円
9 旅費(財務オンライン)	円	18 備品購入費	円
11 需用費	310,000 円	合計	447,800 円

有効性総合評価

A: きわめて高い
 B: 高い
 C: どちらとも言えない
 D: 低い

事業内容	執行額(円)	実施内容(実施月)	外部評価	校長による評価	
			生徒・保護者・地域住民・事業関係者等による評価	成果	課題
(1) 地域との連携の充実 「総合学習」 「課題研究」	90,252	<ul style="list-style-type: none"> ・食育サークルとの料理作り交流会(6月) ・飯田東中との「花いっぱい交流会」(6月) ・飯田養護学校高等部との交流会(6,12月) ・環境保全農業の推進と炭の制作(6~12月) ・食と農に関する地域イベントへ参加(10,2月) ・地域中学校への情報発信(8,11月) 	専門学習の延長として地域に積極的に出て活動している。夏休みのアグリフォーラム研修や就業体験研修、地域への花の提供、農場生産物の委託販売、農場の開放など地域のニーズや要望に応えている評価をいただいた。	・地域との交流で生徒が生き生きと活動している。 有効性総合評価 A	地域の出ることにより生徒がよりステップアップして、継続学習されることを期待する。
(2) 社会人外部講師の活用 (謝金等)	117,800	<ul style="list-style-type: none"> ・豆腐作り講演と実習(アグリサービス)(6月) ・地元産梅漬け加工(＼)(7月) ・農耕地生態系について(環境科学)(5~2月) ・自動車点検整備について(農業機械)(2月) ・花の生産と消費動向(園芸クリ)(7~2月) ・肉の加工と商品開発(食品加工)(2月) ・菓子産業の成り立ちと製餡(＼)(12月) 	生徒たちからは農と食について地産地消の意義を強く感じた良い評価を得ている。外部講師からも学ぶ姿勢がよいと感想をいただいた。	・地域にいる卒業生やその道の達人から技術を学び、生徒は興味関心を得ている。 有効性総合評価 A	経済優先の中で農業教育を専門に生かすために、いろんな団体と支援していくよう考えていきたい。
(3) 職業科におけるライセンス取得	39,748	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物取扱者講習(6,10,2月) ・自動車整備士取得(2,3月) ・ガス溶接技能講習(8月) 	農業機械科の自動車整備士は80%の合格率を上げ地域から信頼されている。年々受験率合格率とも減収傾向にある。	・各種資格取得のために自ら学習に取り組む姿勢が見られた。 有効性総合評価 B	今年は取得率が若干減少した。各種資格取得率を上げるために補習等指導をしていきたい。
(4) 進路ガイダンスの実施	200,000	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ノートの作成(3月) データブック(全学年) アプローチ(全) アクセス(3学年) 	ほぼ100%の進路決定率を評価されている	・卒業生の情報等から在校生の進路指導の一助になっている。 有効性総合評価 B	キャリア教育と合わせ、各学年の進路意識の向上を図りたい。
公表・説明					